

1 4	受験番号シール貼付欄

第 1 問 答案用紙<1> (会 計 学)

問題 1

問 1

702,000 千円

問 2

218,625 千円

問 3

(1)

生産量基準により連結原価をあん分すると、各連産品の単位原価が等しくなるという一般的な特徴がある。したがって、一般的に売価が異なる連産品においては各連産品の売上総利益率は相違するが、他方正常市価基準により連結原価をあん分すると、各連産品の売上総利益率は等しい。

(2)

222,750 千円

問 4

236,962.5 千円

問 5

(1)

26,000 千円

(2)

238,145 千円

問 6

(1) 推奨する案：

案 3

(2) 理由：

案 1 は、現状案に比べて売上の増加はゼロであり、製品原価総額の按分方法を変更して売上原価 4,124 千円の減少をもたらしているにすぎず、その結果、予想営業利益を 4,125 千円増加させている。

案 2 は、現状案に比べて売上の増加はゼロであり、生産量の増加により売上原価 18,337.5 千円の減少をもたらしているにすぎず、その結果、予想営業利益を 18,337.5 千円増加させている。

案 3 は、現状案に比べて売上が 96,000 千円増加させ、売上原価を 70,648 千円増加させているため、予想営業利益が 25,352 千円増加となり、他の案に比べて利益改善が一番大きいので最善案と言える。

$\frac{2}{4}$	受験番号シール貼付欄

第 1 問 答案用紙<2> (会 計 学)

問題 2

問 1

仕掛品		(単位：円)
月初仕掛品 (144,000)	製 品 (10,019,200)	
直接材料費 (3,974,400)	月末仕掛品 (84,000)	
直接労務費 (2,912,000)	異常仕損品 (60,800)	
製造間接費 (3,735,000)	原価差異 (601,400)	
(10,765,400)	(10,765,400)	

問 2

(1)	(原価標準の特徴) 正常減損費を含まない正味標準原価と正常減損費を含んだ総標準原価を区別して表示できる特徴がある。
(2)	(経営管理上のメリット) 正常減損率を超えて発生した異常減損費と標準原価差異を分離して把握することが出来るメリットがある。

問 3

(1)	製造ラインにおいて管理可能な作業時間差異である。
(2)	異常減損費の発生原因とその是正処置を図ることが管理ポイントである。

問 4

能率差異を変動費部分と固定費部分に分けることが可能となる。

問 5

(1)	予算差異
(2)	製造間接費は、一定単位の製品の生成に関して直接的に認識できないため、実際操業度における予算許容額で管理されるから。

評点